

平成25年度 京都市立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A16	取組 名称	グローバルな視点をもつ人材を育成するための関西学研都市における実践研究：国際中学生キャンプの試行
研究代表者：	生命環境科学研究科	職・氏名：	准教授・織田昌幸
研究担当者：	京都府立大学（織田 昌幸、小道 信孝、稲葉 理美、元木 祥子） 外部分担者・協力者（吉永 洋一氏、高橋 克忠氏 ほか）		
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）	特定非営利活動法人けいはんな文化学術協会 など		
【研究活動の要約】			
<p>けいはんな国際中学生キャンプを、夏休み期間中の8月9日から8月11日と、冬休み期間中の12月21日から12月23日の2回、いずれも2泊3日で、けいはんなプラザを主会場として開催した。キャンパーとなる中学生として、8月が13名、12月は19名の参加者を迎え、キャンプカウンセラーとしては本研究担当に加え、各国からの留学生が参加した。本研究担当のプログラムとしては、生命科学に関する話と簡単な実験などを行い、他にも留学生の「お国自慢」で各国の実状を話しあうなど、生命科学にとどまらず、人文科学全般について、中学生が自らの将来やグローバル社会、トランスサイエンスなどを考える場を提供した。各キャンプ最終日には成果発表会として、保護者らも参加し、中学生がPower Pointを使って「キャンプの感想」や「将来の夢」などについて自分の考えをまとめ、発表した。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>参加した中学生においては、大学では何をしているのかを現役の大学院生から聞くことができ、勉強のことだけでなく生活のことなども、また大学生が中学生のころに何を考えていたかなども知る機会を得ることができた。生命科学関連プログラムにおいても、中学生理科で学ぶ内容を実際に実験することで、中学校では実感しにくい内容も学ぶことができた。さらに留学生との話を通じて、世界はどのような状況にあり、その中で日本や自分たちの生活はどうか、など、まさにグローバル社会に向け、考えるきっかけを得ることができた。以上は、キャンプ時の中学生の声としても、またキャンプ後に実施した中学生本人、及び保護者にお願ひし実施したアンケート結果からも窺われた。</p> <p>参加した大学院生においては、中学生と接することで、教えることの難しさや面白さを、また留学生と接することで、国際性やコミュニケーション力の重要性を学ぶことができた。一方、大学教員としても、本取り組みの重要性や難しさを、特にけいはんな文化学術協会との事前準備を通して学び、今後の地域貢献活動における課題を明確にすることができた。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>けいはんな国際中学生キャンプ最終日（8月11日、12月23日）に、成果発表会をけいはんなプラザにて開催した。またキャンプ全般の概要は、以下のHP上で公開している。 http://blog.goo.ne.jp/antares1938</p>			
【お問い合わせ先】		学部（研究科）	生命物理化学研究室
Tel: 075-703-5673			准教授・織田昌幸
		E-mail:	oda@kpu.ac.jp

参考（イメージ図、活動写真等）

中学生キャンプの風景

